言葉では説明できないことを説明する

最近のテレビ番組には『食』に関するものが多いと感じませんか。中にはただたくさん食うことのみを売りにする低俗番組まであります。

さてこの『食』番組ですが，視聴者はテレビの映像からそのにおいや温かさや味，のどごし，舌ざわり，食感を想像します。加えてレポーターは自分の持つ表現を総動員してその「うまさ」,「旨さ」,「美味さ」を説明しようとします。

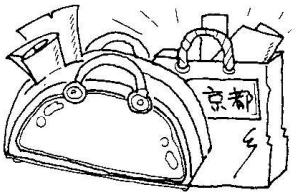
『カリッとした食感！さわやかな酸味とほどよく調和したほのかな甘み。口の中にほんわりとひろがる香草の香り…』

くどいくらいの説明を試みても，聞く人は総体としての味をイメージすることはできません。なぜなら,『さわやかな酸味』も『ほのかな甘み』も無限のグラデーションがあって固定的な味ではないからです。

単純に,『駅前ラーメンのギョーザ！』と言えば食べたことのある人ならすぐその味は分かるでしょう…でもこれは『味』を説明していることにはならないのです。

同様に，自転車に乗れない人に乗り方を言葉で説明することもとても難しい。唯一，力学的に理にかなっている説明は『倒れそうになった方にハンドルを切れ！』です。しかし，これにしたって自転車のスピードや運転者の重心などが複雑に影響するのでこの説明だけで乗れるようになるとはとうてい思えません。

さて，つじつまの合わない話を続けますが，学校では言葉で説明しなければならない場面が多くあります。また，意図的につくっています。



たとえば,「修学旅行はどうだった？」,『楽しかった！』。「どこが楽しかったの？」,『ＵＳＪ！』。「ＵＳＪのどこが…」こういう問答は聞く方も疲れるし応える方も非常にめんどくさいです。

自分の心情や感想をできるだけ相手の気持ちに届くように説明することは自分の感情を聞き手と共有する意味でとても大事なことです。「私の気持ちを誰も分かってくれない」ことはとても悲しいことです。

説明する力は技能であり，技能は訓練によって大きく上達します。今年度，本校では(言葉で)表現する力を伸ばすことを学校研究として位置づけ，教科の枠を越えて生徒の説明力の向上に取り組んでいます。